

三体千字文を書く(16)

締切り 四月二十四日(必着)



奥村憲照先生書

□作品の出し方

- ▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部 B5判に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」の一課題からスタートしましたが、憲照先生の穩健中正で気品のある毛筆手本が好評を博し、「硬毛一致」の新しいスローガンを打ち立てて毛筆部の充実を図り、本会の発展へとつながりました。

◆原点に戻って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初学者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二〜五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

果珍李奈
菜重芥薑

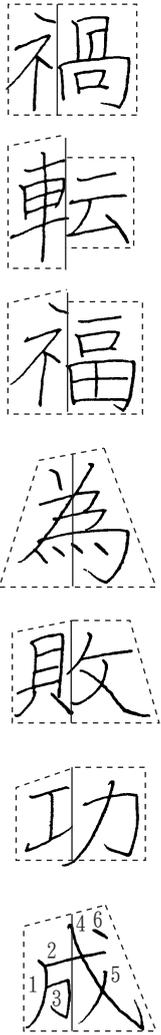
果物としては李や奈を珍味とする。

野菜としては芥や薑を重んずる。

準初段から六段まで

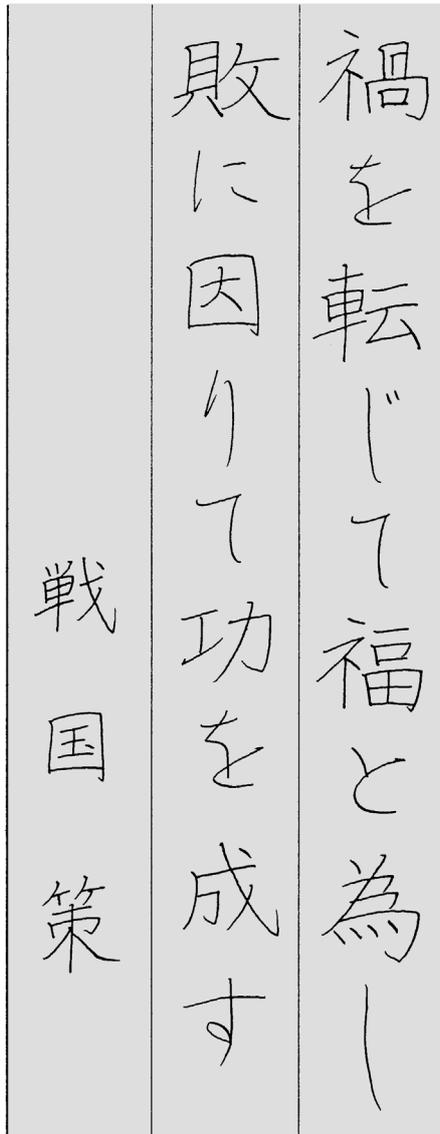
新入から1級まで

〔解説〕



◎楷書は一点一画でいねいな努力が大切。「愚公山を移す」。列子の著に、北山の愚公が家の前にそびえる二つの高山を切り崩すべく、毎日息子や孫と作業をつづけ成し遂げた努力に肖りたい。

▶教範・書範は右課題を「行草または草書」で、師範は「行書」で出書して下さい。

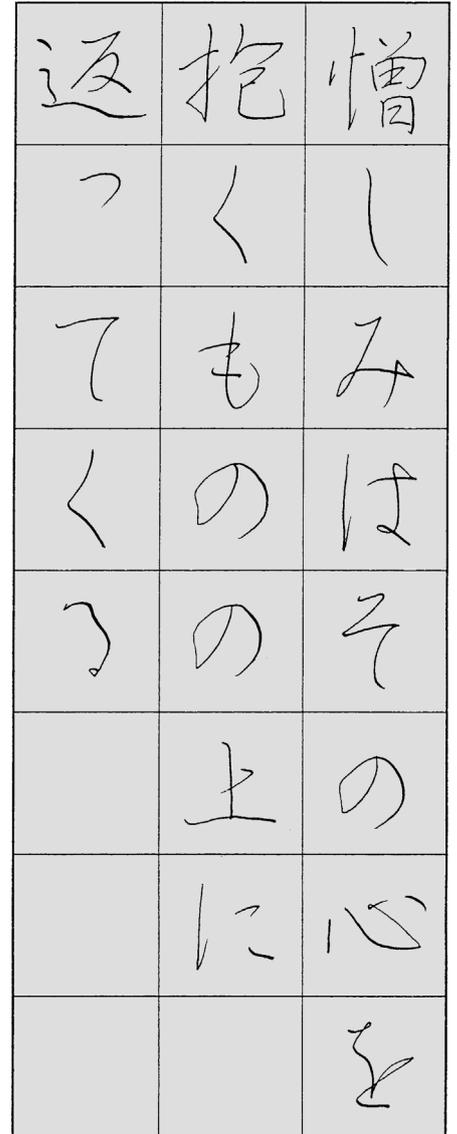


おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

〔解説〕



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会級位用紙

★憎しみ：(書体〓行書)

ベートーヴェン(1770-1827)

ドイツの作曲家

自分の人生、生活が思うようにならないからといって、環境を呪ったり、他人を憎んだりしてはいけません。そういう気持ちは、結局は自分を卑しめ、自分の心を傷つけるのです。

悩みの絶えない生涯を送りながら歴史に名を残した大作曲家の言葉として、大変重みを感じられます。

◆5月課題予告(楷書)

まず疑う

次に探求する

そして発見する

★禍を：(書体〓楷書)

中国、戦国時代の縦横家が、諸侯に述べた策略を国別にまとめた書、「戦国策」より

身に降りかかった災難をなげいても何も好転はしません。人生にはつらい時、幸せな時が誰にもあります。前向きな姿勢で明日への希望を持つことが人生には大切です。負けや失敗もその経験を生かして、明日の成功へとつなげていきたいものです。

◆5月課題予告(行草または草書)

学は博きを貴ばず

正しきを貴ぶのみ

楊時

▼教範・書範〓行書

▼師範〓楷書

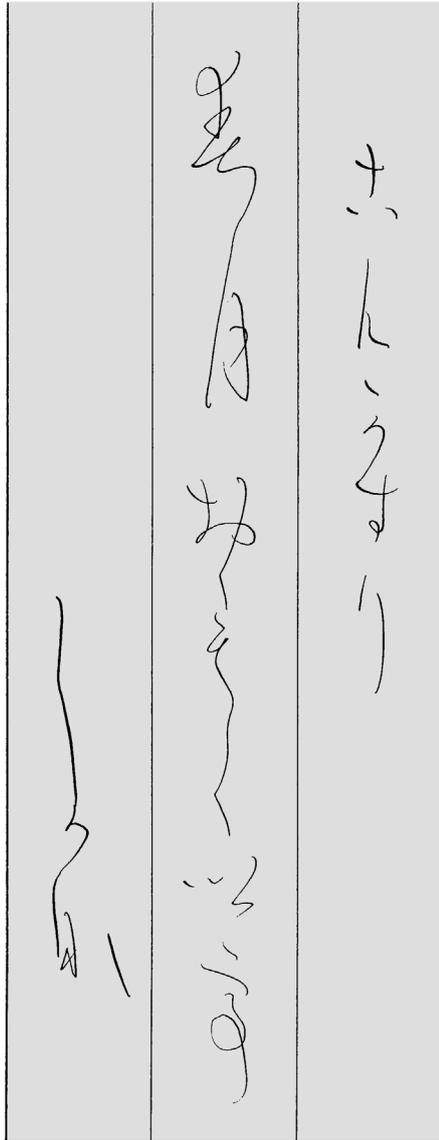
一般部かな課題

締切り 4月24日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

紺^{かん}紺^{かすり}春^{はる}月^{つき}重^{おも}く出^{いで}でし^いか^なな

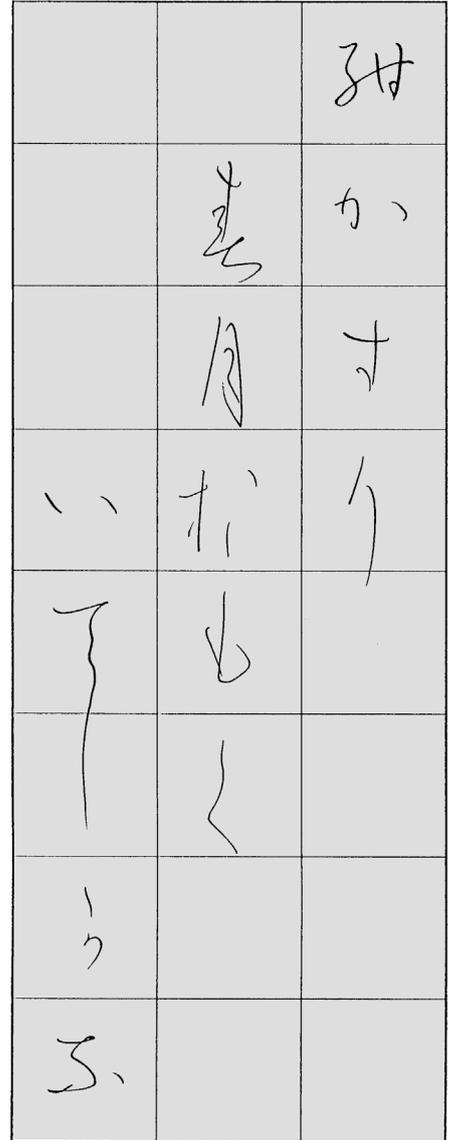


おお みや しゅん ちやう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

▷用紙=本会段位用紙

紺^{かん}紺^{かすり}春^{はる}月^{つき}重^{おも}く出^{いで}でし^いか^なな



おお みや しゅん ちやう
大 宮 春 兆 書

▷用具=自由(黒色に限る)

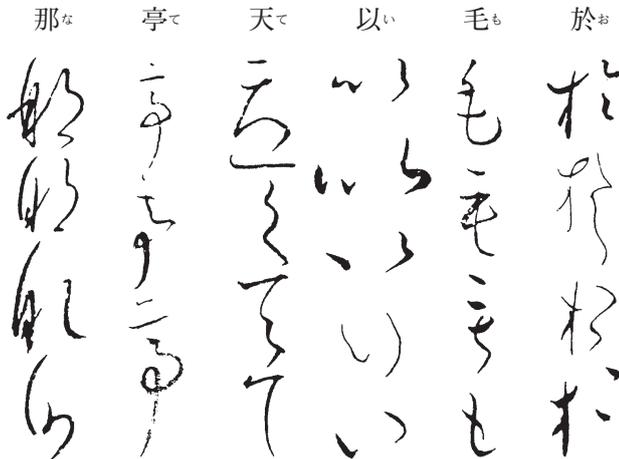
▷用紙=本会級位用紙

■両課題とも、文字の変換・配字は自由です。

◆5月課題予告

青天^{せいてん}や白^{しろ}き五^ご弁^{べん}の梨^{なし}の花^{はな}

(原^{はら} 石^{せき}鼎^{てい})



〔古筆参考〕

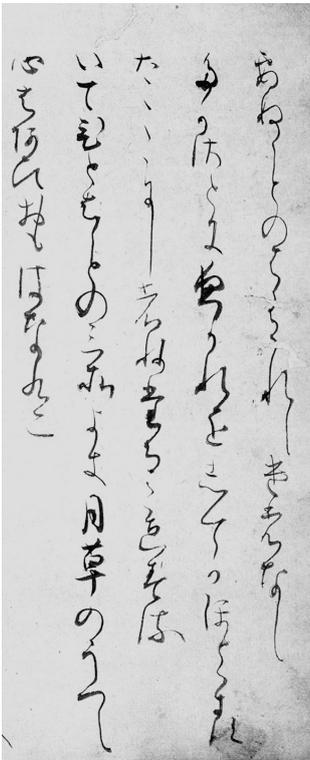
〔句意〕紺紺を着た少年の頭上高く、濃い橙色の重たい感じの春の満月が輝き出て、紺の模様まで、くっきりと浮かび上がらせていることである。

紺^{かん}紺^{かすり}春^{はる}月^{つき}重^{おも}く出^{いで}でし^いか^なな

(飯^い田^だ龍^{りゆう}太^た)

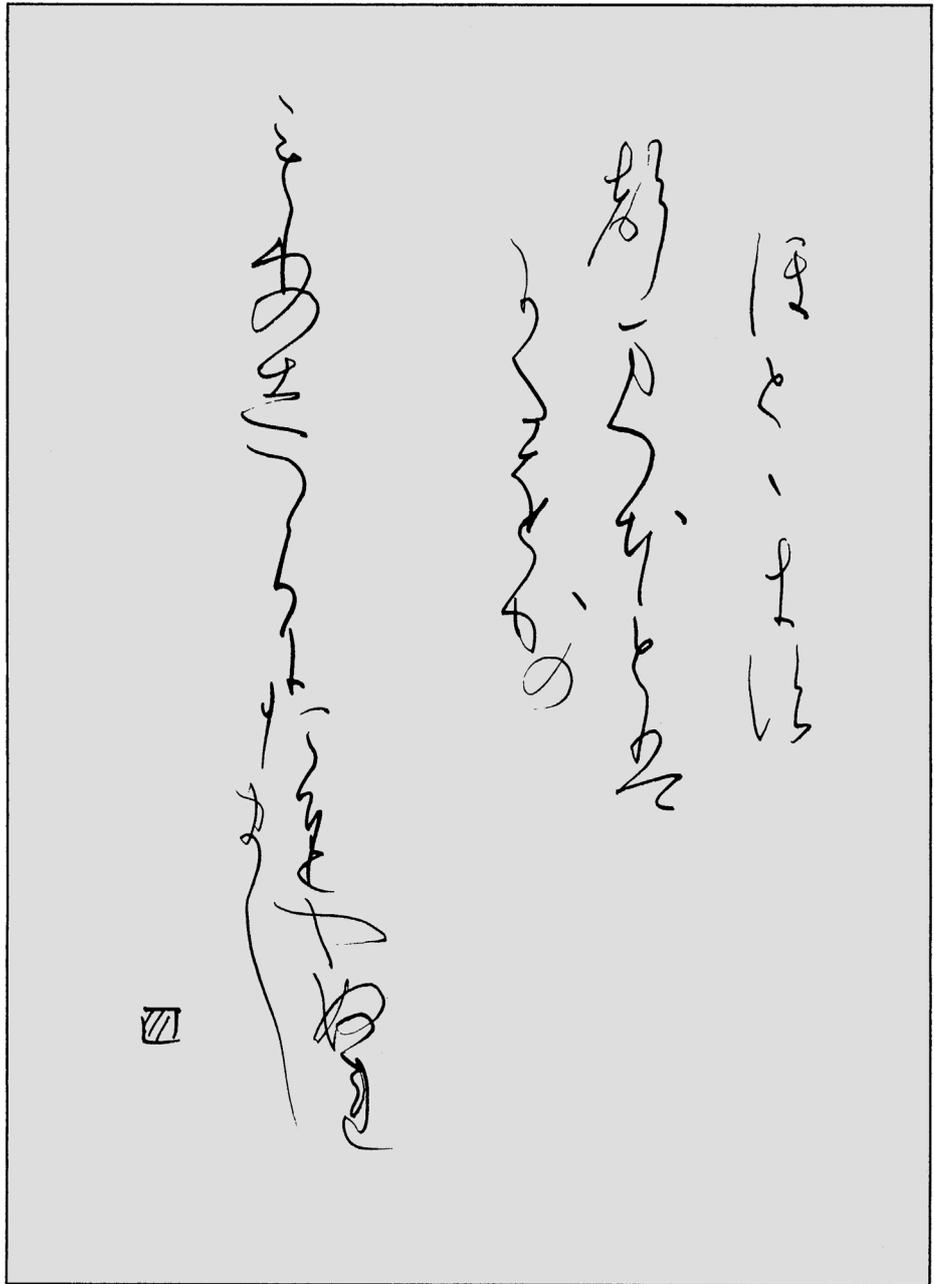
〔古筆参考〕

せきどほんこきんしゅう
関戸本古今集



締切り 四月二十四日(必着)

築瀬舟香書



要
えぬことのはうれしげもなし
多可佐
たがさによがれをしてかほとぎす
たごこにしもねたるこゑする
いでひとはことのみぞよき月草のうつし
心はあひおもはなくに

紫式部
ほとぎす声待つほどは片岡の
毛利志
もりのしづくに立ちやぬれまし
〔歌意〕ほととぎすの鳴く声を待つ間、
片岡の御社の杜に立ちつくして、木々
の雫にぬれましようか。
〔出典〕新古今和歌集
(新潮日本古典集成)



〔解説〕
①と②、①と③、①と④、①と⑤、①と⑥、
①と⑦、それぞれ呼応。
● 行の中の高まり。密の動き。
○ 作品の中の大きな間、大切。
◀ 線の方向大切。行間をしめるの
に役立つ。
行のゆれ

作品は文字が並んでいるだけでは美しいとは云えません。一行が右に張り出したり左に張り出したりしながら、お隣の行と合う様に文字組をして揺らして書く楽しい作品になります。
◆5月課題予告
卯の花のむらむら咲ける垣根をば
雲間の月のかげかとぞみる

締切り 4月24日(必着)

お元気ですか。私もお陰で変わりなく、暇を見つけては庭いじりを楽しんでいます。近い内に自分で採ったサルビアの種子をお送りします。春蒔けば八、九月頃には燃えるような花が咲きますよ。

お元気ですか。私もお陰で変わりなく、暇を見つけては庭いじりを楽〜んとしています。近い内に自分で採ったサルビアの種子をお送りします。春蒔けば八、九月頃には燃えるような花が咲きますよ。

◎手本は水性ボールペン使用

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

紙面に対する文字のくばり方を、書道用語で「布置」といいます。

岐 阜 県 多 治 見 市 氏 名

※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 4月24日 (必着)

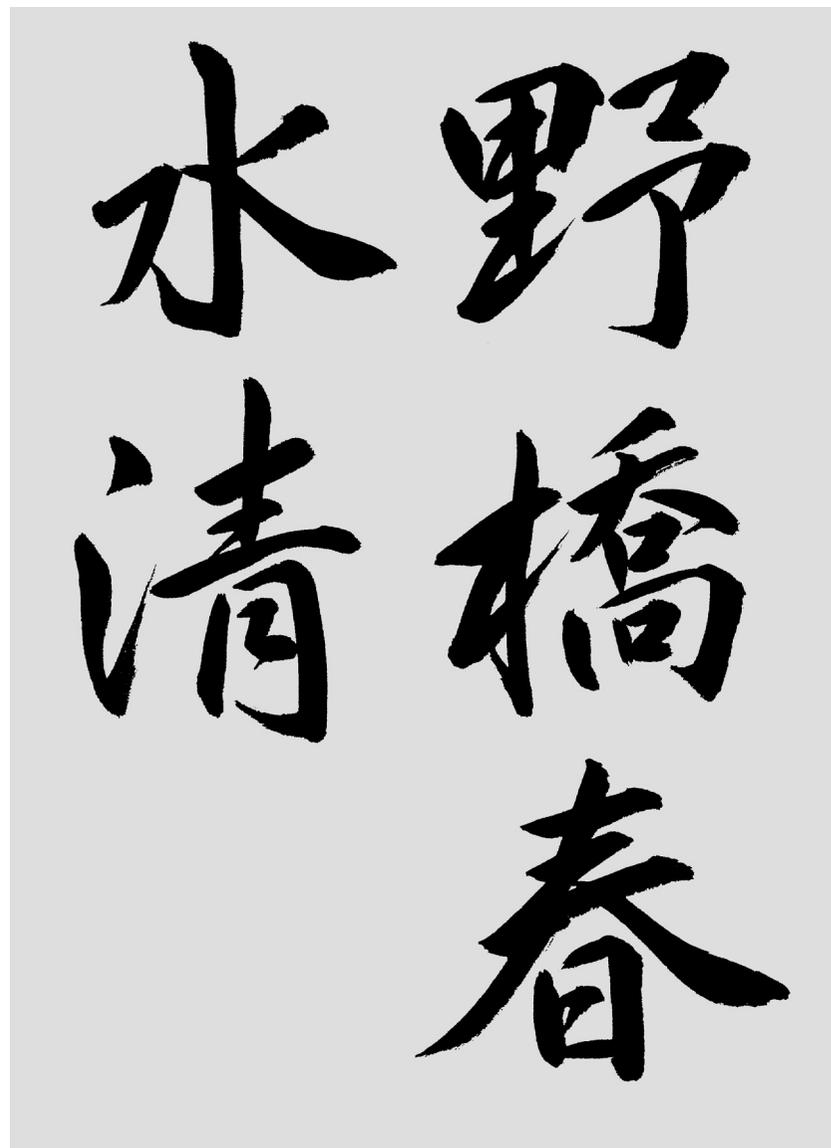


準初段から師範まで

奥村暢之臨

〔出典〕孔子廟堂碑（626～633）〔筆者〕虞世南（558～638）

〔読み〕清廟を（恭う。）宵に衣て具に食い、



新入から1級まで (行書)

荻田蒼仙書

〔読み〕野橋春水清

〔大意〕野原の中の橋の下に清らかな春の水が流れている。

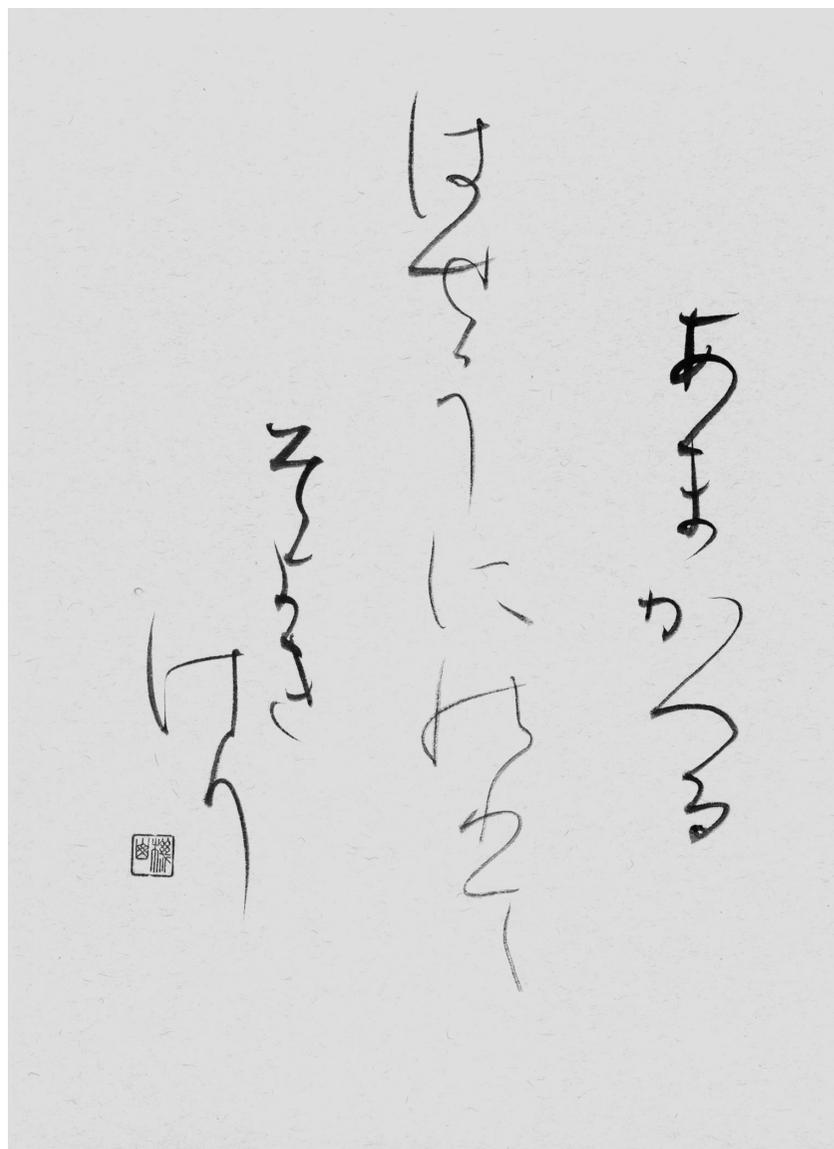


一般部毛筆かな課題

締切り 4月24日 (必着)

新入から1級まで

浅井機山先生書

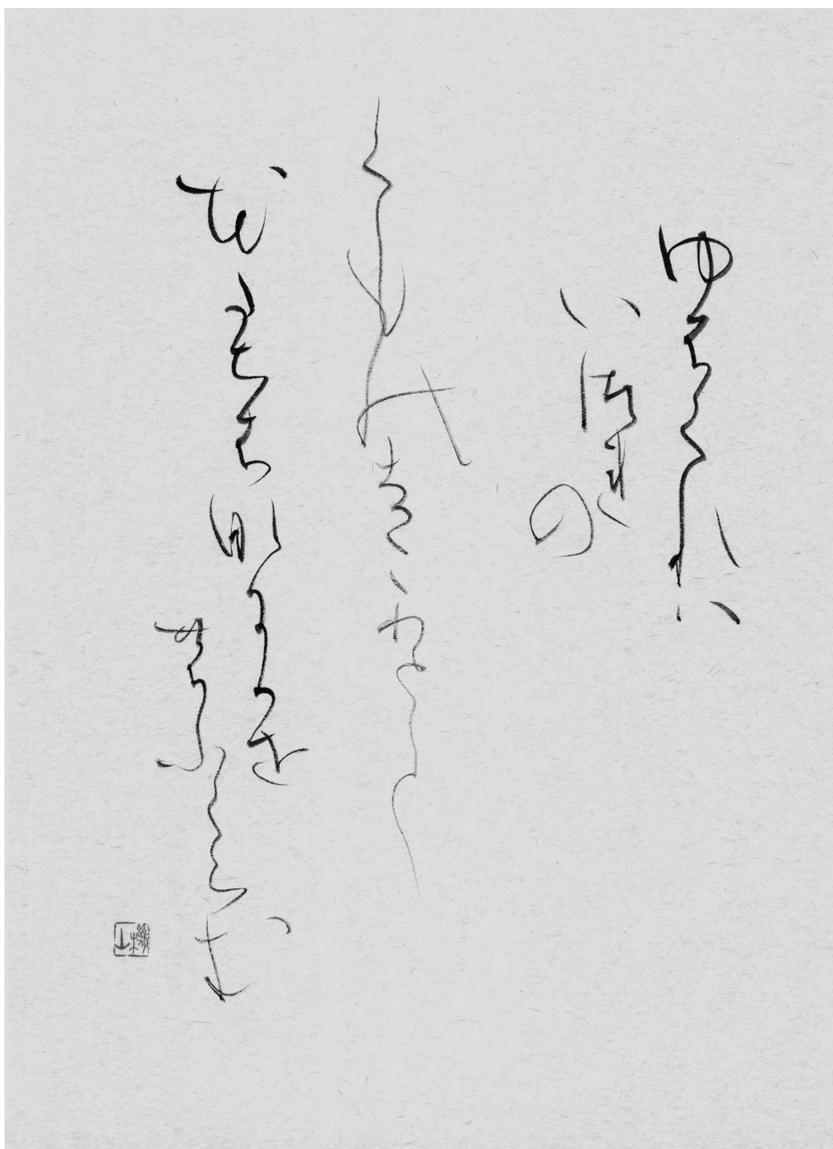


〔出典〕 榎本其角

〔句意〕 大きな芭蕉の葉と小さな雨蛙との対照が、「そよぎけり」に的確にとらえられ、あざやかな印象である。

準初段から師範まで

■ 両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



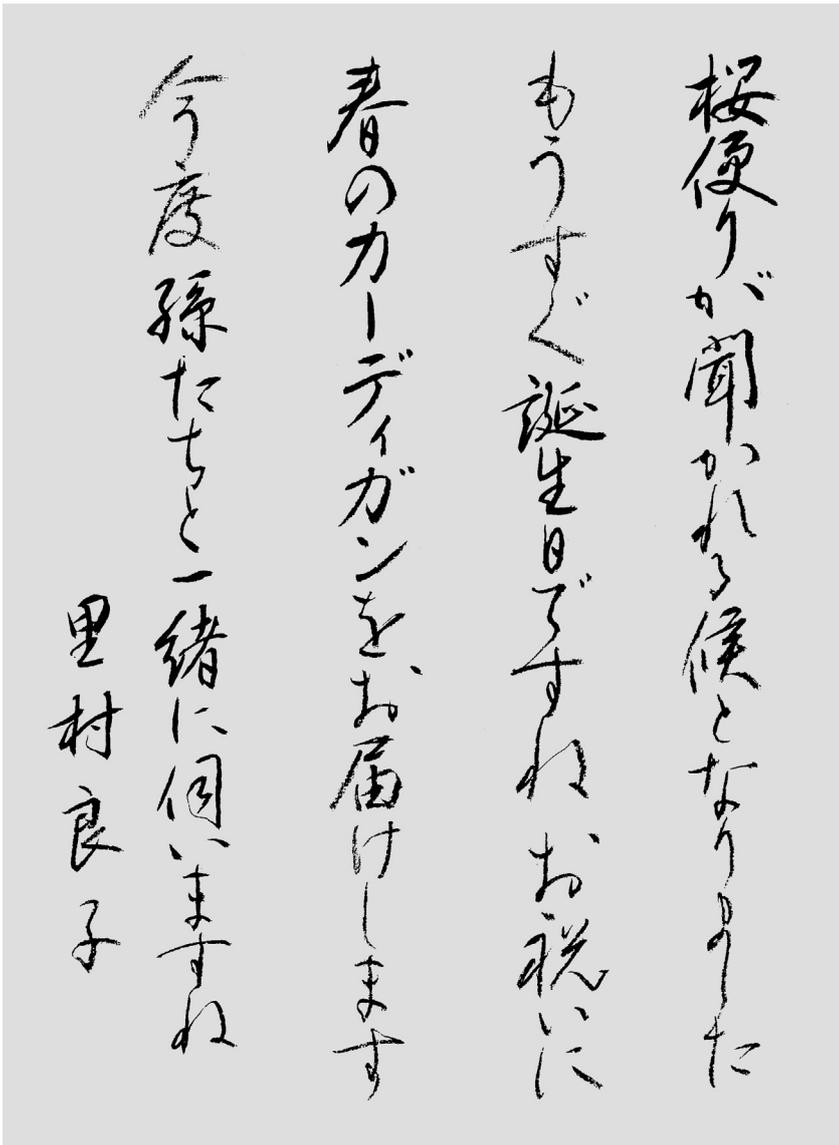
〔出典〕 藤原定家

〔歌意〕 夕暮れの風は、いづこの人の火葬の煙が雲となっているのを吹いてきた果ての風として、わが庭の花橋に、今吹いているのだろう。

夕暮はいづれの雲の名残とて
花橋に風の吹くらむ

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



半紙 (334mm × 240mm)

書 華 玲 田 樋



締切り 四月二十四日(必着) 半切 (一三六cm × 三五cm)

萩 田 蒼 仙 書

〔条幅解説〕 雅印は揮毫者の証明です。深い紺色もありますが、基本は朱色です。朱色は中国では生命を与える意味です。即ち作品に生命を与えて作品効果を高めるのです。米国では開拓を意味します。篆刻は日展五科書の部門に入っています。印も線の芸術だからです。印泥も多様です。出来れば一流の印、印泥に関心を持ちましょう。さもないと書の見識を問われます。

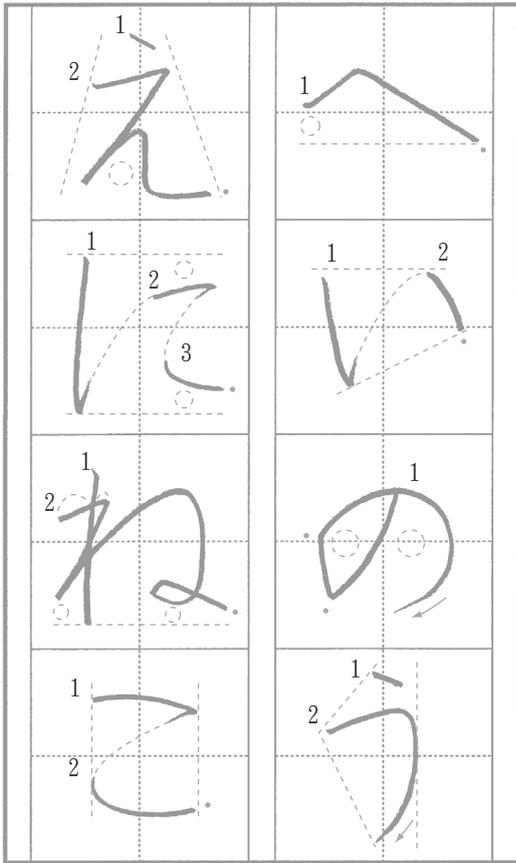
桜便りが聞かれる候となりました
もうすぐ誕生日です。ね、お祝いに
春のカーデイガンをお届けします
今度孫たちと一緒に伺いますね

〔条幅・細字作品の出し方〕
■ 印で墨つきしました。
■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。
■ 成績(天位〜5等)は、評価により毎月変わります。
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。
お書き下さい。

初出品の方へ
支部名・会員番号・
姓名・毛筆漢字成績
を、作品左下に必ず
お書き下さい。

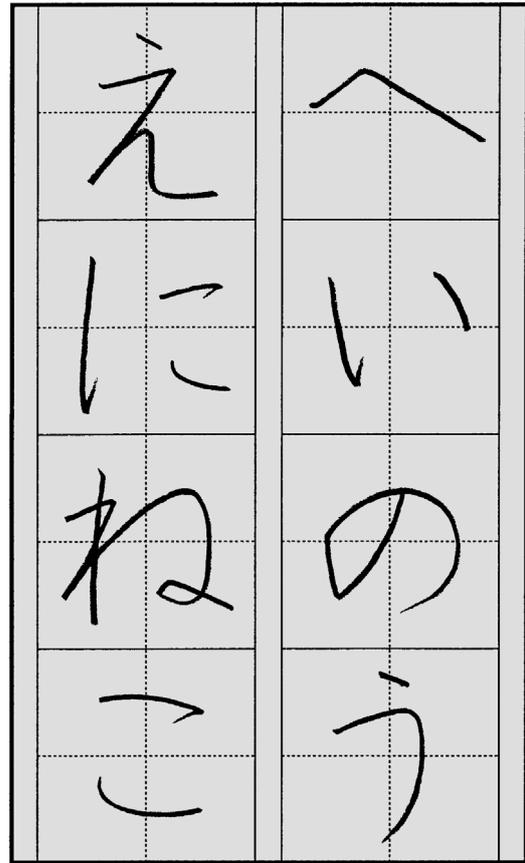
あたかも春風相欺得
恰似春风相欺得
夜來吹折數枝花
〔大意〕 あたかも春風
に侮られたとでもいう
ように、昨夜から数枝
の花を吹き折られた。

〈ようぐく自由〉(黒色にかざる)



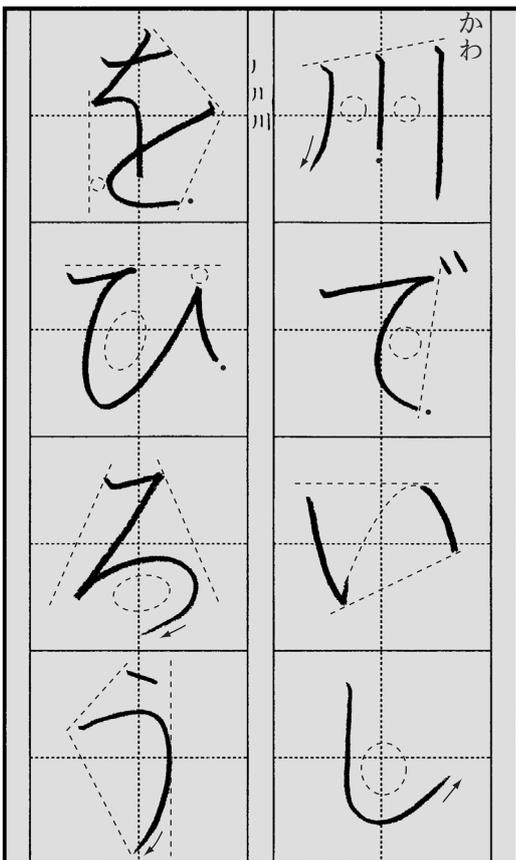
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



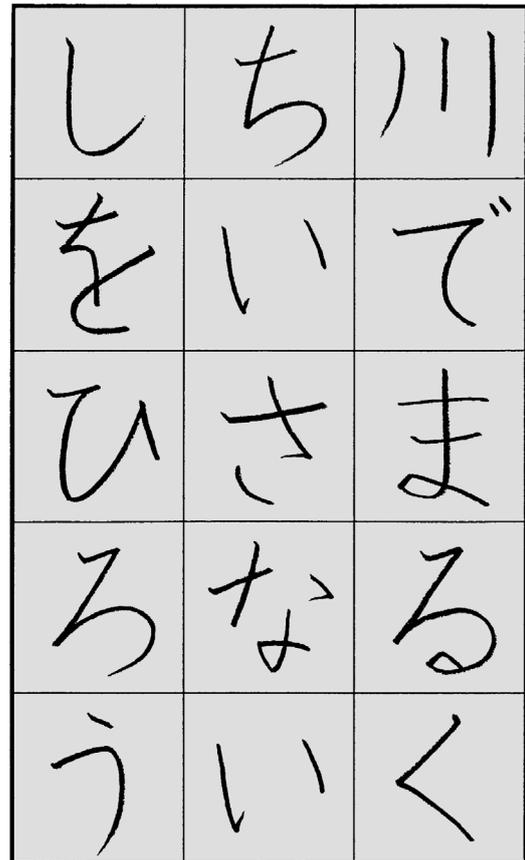
よ
う
年

幼年〜小三年
三宅容玉書



新入〜1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



新小一年

準初段以上

〈ようぐく〉自由(黒色にかざる)

を	け
買 ^か	し
う	ゴ
よ	ム

新入1級

ム	白	新
を	な	し
買	け	い
う	し	ま
よ	ゴ	っ

準初段以上

新小二年

準初段以上

具 ^グ	す
の	き
お	な
店 ^{みせ}	家 ^カ

新入1級

家	す	母
具	き	さ
の	な	ん
お	洋	が
店	風	大

準初段以上

新小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

新小四年

品	お
物	祝
選	い
ぶ	の

(全員)

新四年生は、左記により、全員この手本どおり8マス用紙で出書してください。

記

- * 用具は自由ですがデスクペン、つけペンで書く人は、硬くならず、のびやかに書く習慣をつけることが第一目的です。
- * 六月締切り分までは、この方法を続けます。
- * ペン書きの人は早く慣れるよう、たくさん練習をしましょう。
- * 七月締切り分からは、準初段以上は従来どおり15マス用紙を使用してください。

〈用具〉自由(黒色に限る)

新小五年

に	る	辞
つ	習	書
け	慣	で
よ	を	調
う	身	べ

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

解説(よく見て習いましょう)

慣	辞
身	書
	調
	習

小四以上 須田一葉書

新小六年

吸	を	木
収	大	綿
し	変	は
ま	よ	水
す	く	分

(全員)

※木綿(もめん)単語としてこのように読みます。

解説(よく見て習いましょう)

大	木
変	綿
吸	水
収	分

〈ようつぐ〉自由(黒色に限る)

新中一年(行書)

む	題	ご
市	に	み
民	取	処
団	り	理
体	組	問

新中二・三年(行書)

動	て	ハ
が	は	ワ
盛	噴	イ
ん	火	諸
だ	活	島

◎お手本は、つけペンで書きました。

こどものひろば

幼年

こ	お	は	へ
え	お	い	ん
で	お	と	じ
	き		は
	な		

新小三年

や	ぜ	ま	学
り	ん	え	校
ま	ぶ	の	の
す	自	日	よ
	分	に	う
	で		い
			は

新小六年

一	そ	最	日
あ	れ	も	本
り	は	美	語
が	心	し	の
と	か	い	中
う	ら	言	で
ー	の	葉	

新小一年

お	か	一	ま
て	あ	つ	い
つ	さ	は	に
だ	ん		ち
い	の		

新小四年

な	み	き	交
か	ん	ち	通
よ	な	ん	ル
く	で	と	ー
登		守	ル
下		り	を
校			

新中一年 (楷書)

父	広	努	人
の	い	力	の
尊	愛	を	た
い	を	惜	め
教	持	し	に
え	て	ま	も
	と	ま	
		ぬ	

新小二年

よ	お	先	よ
く	は	生	い
き	な	の	子
き	し		は
ま	を		
す			

新小五年

席	お	勇	乗
を	年	気	り
ゆ	よ	を	物
ず	り	出	の
ろ	に	し	中
う		て	で
			は

新中一・三年 (行書)

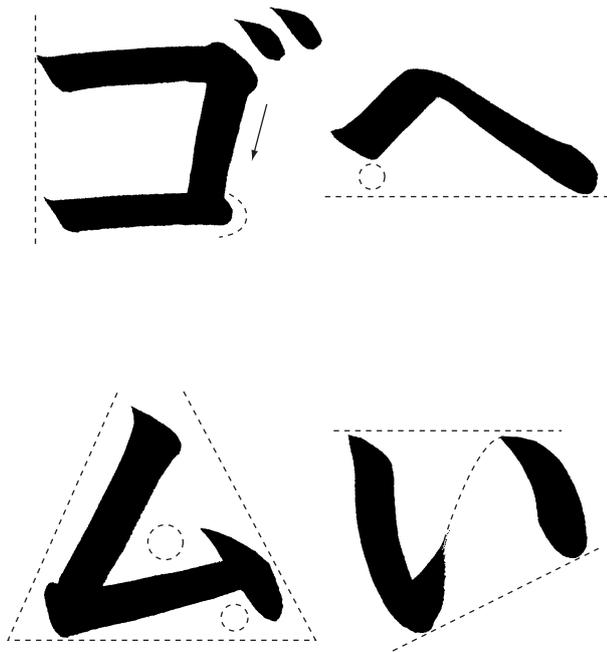
有	中	あ	責
意	学	る	任
義	校	態	と
に	生	度	け
過	活	で	じ
ご	を		め
す			の

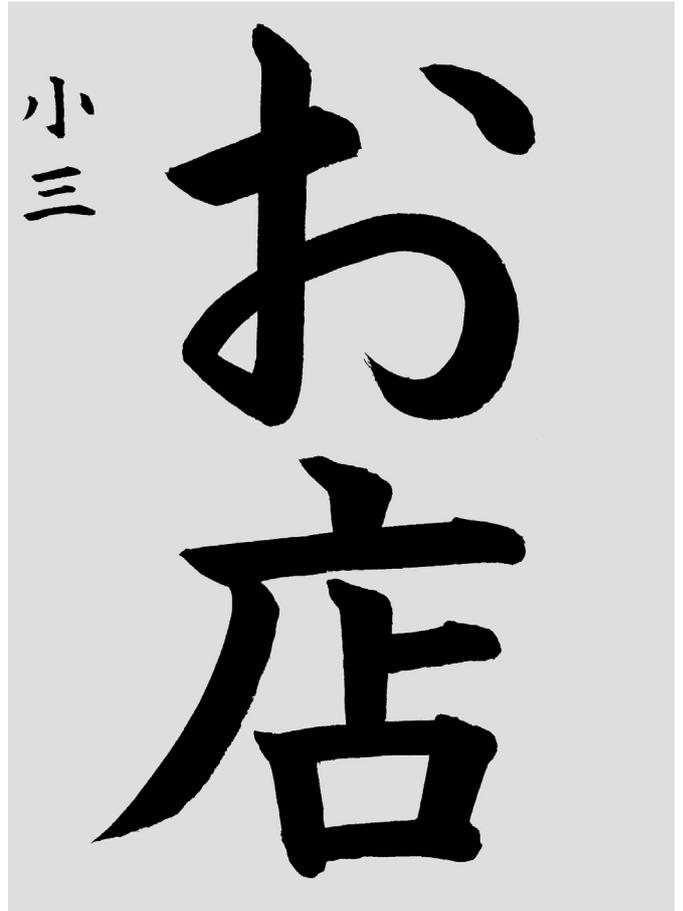
▼今月は、席書大会開催に合わせて特別に席書課題をひろばの課題とします。本番に向けてサインペンで練習してみましよう。

▼4行用紙のない場合は、いつも通り5行用紙に書いても構いません。体裁よく収めてください。用具も自由です。



幼年す小二
年
玉たま
樹き
小しょう
華か
書





小三、小五年

水野香竹書



★行書は気脈のつながりに注意しよう。

第34回 中部児童・生徒硬筆席書大会

今年も左記のとおり、中部児童・生徒硬筆席書大会を開催します。中学生以下なら、だれでも参加できますから、お友だちみんなに呼びかけてご参加下さい。

一、期 日 平成二十五年五月六日(月・祝)
 一、受 付 午前九時半から十一時半まで

(所要時間＝一回約三十分)

一、会 場 土岐市文化プラザ(土岐市役所隣)

一、参加料 五〇〇円

一、用 具 黒色サインペン(各自持参すること)

席書用紙三枚を当日全員にわたします。

一、課 題 下段の文章で、変換をしないこと

一、成績発表 七月号誌上 中日新聞紙上(予定)

一、作品展会場 セラトピア土岐 二階小ホール

一、作品展会期 平成二十五年五月十八日(土)十一時～十七時

十九日(日)九時～十七時

一、褒 賞

大賞・準大賞・会長賞※岐阜県知事賞※土岐市長賞
 ※土岐市教育長賞※岐阜県教育委員会賞※名古屋市教育局委員会賞※岐阜県教育文化財団理事長賞※中日新聞社賞・大書心会賞・理事長賞・師範会賞・特選・奨励賞・金賞・銀賞(※申請中)

申込方法

五名以上の団体は予約制となりますので、大書心会事務局まで、お申込み下さい。なお、個人参加は当日受付いたします。

※参加者全員に、お楽しみプレゼントあり!!

※引率の方にもお楽しみコーナーがあります。

※モニタールームにて、お子さんの揮毫風景をご覧いただけます。

▽授賞 作品展開催中、会場で参加証と引換えにお渡しします。

席書大会課題

新小4年	新小3年	新小2年	新小1年	幼 年
なみき交 かんなち通 よくなんと 登り守り 下校を	やりぜんま りますぶえの ます自分日 に分てに ういは	よお先 くは生の きなきし ますを	おか一 てあつ つさん だいの い	こおは えおいと できなな はんじは

※席書大会当日は、活字の課題を配りますが、それ以外の手本等は
 いっさい見てはいけません。しっかり習っておいて下さい。

新中2・3年(行書)	新中1年(楷書)	新小6年	新小5年
有意中責 義学任 に校態 に生度 に活 を を	父の広努 の愛を 尊を い持 教と え	「そ最日 ありれも本 が心は美語 が心は美語 とうからの 言葉	席お勇乗 を年気り ゆよりを物 ずりに出の ろうしては

※左の課題はサインペン書
 きの肉筆手本です。

▼原寸大手本(コピー) 一枚……五〇円
 ▼席書用紙 一冊……七〇円

※いずれも送料実費